

会議録（要点筆記）

会 議 名	第5期 第2回米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	平成28年1月22日（金）午前10時05分～午前11時35分
開 催 場 所	米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：今川委員、大石委員、高木委員、鈴木委員、福永委員 事務局：山田理事、小寺課長補佐、関沢、福井 傍 聴：なし 欠席者：岩山委員、垣見委員、吉原委員、吉川議員
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの意見書の内容について ・これまでの意見や提言を基に制度化されたもの ・意見交換
結 論	<ul style="list-style-type: none"> ・今回いただいた意見を参考に今後の議論の方向性をまとめていく
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	<p>1 開会 事務局進行 本日の会議が成立していることを報告。</p> <p>2 あいさつ 会 長：米原市は自治基本条例を非常に大切にしている。その成果については後ほど事務局から説明をいただけますが、着実に色々な制度化を図られています。一気に望みの高いものではなく、着実に一歩ずつ進められてきたのが重要であったのかと感じているところです。今回はどのようなテーマにしていくかという議論であるため、是非活発な御意見をいただきたく思います。</p> <p>3 これまでの意見書の内容について 事務局からこれまで提出された意見書について説明後、その意見書を基に制度化されたものについて説明。</p> <p>4 意見交換 会 長：自由に議論いただきたく思いますが、今ほどの説明の内容でも、米原市のまちづくりにおいてどのような要素が必要かという意見でも構いませんので意見交換をしていきたいと思っております。日常生活の上で疑問に感じることも結構です。 副会長：皆様がどのような活動をされているのか知り得ておりませんので、まずは、どのような活動をされているのか御紹介いただけますでしょうか。</p>

委員：私は兄が経営している事業所で働いており、その関係から米原市商工会女性部に所属しています。女性部の中でも米原市は駅は賑わっているが、降りていただき観光をしていただくということが少ないので、なんとか観光に結び付けるようなまちづくりや発信していけるようなことができないかということで、昨年度から未来創造事業を立ち上げ、その委員会でいろいろ議論をし、1つは昨年の春にジョイいぶきを中心としたPRを商工会全国連に紹介したところ、2回だけではありませんが三重の方から来ていただいたところです。今後、合併はしましたがそれぞれの魅力を引き出していきたいと取り組んでいるところです。

副会長：伊吹山は薬草が有名なのですか。

委員：伊吹山は元々良質のもぐさ取れたということで、薬草をメインにPRさせていただいたところです。

会長：研究機関や企業などとの連携もされたのですか。

委員：薬草を利用されている企業と提携し、試験をさせていただきました。薬草の里の中で場所を借りてお弁当を食べていただくというプランなのですが、伊吹の山菜を利用したお弁当を提供しています。

副会長：なかなかホームページなどでは出てこない情報なのですか。

委員：商工会女性部全国連を見てもらうと全国のおもてなしのプランがあり、その中で情報が掲載されています。

会長：総合計画に薬草という言葉が出てくるのですが、あまり前面にアピールされていなかったりします。

外部といろいろなネットワークがあるのは有効ですね。

委員：中にはスマートフォンやパソコンになじみのない方がおられるのがネックです。

会長：ポイントは観光資源を有効に活用するということが議論として重要ではないかという御意見ですね。

副会長：外にアピールしていくということも重要ということですね。これまでの意見書について非常に丁寧に作られているが、外に発信するところ少し弱いのかと感じます。

委員：Think! まいばらという団体の代表として参加させていただいています。Think! まいばらは米原のまちのことをみんなで考えようとする団体です。メンバーはいますが、固定して何かするというものではありません。セイジカフェという集まりを定期的に開催しています。市の職員や他の地域からゲストを呼ぶときや、自分たちの関心のあることで話をするときもあります。まちづくりのことで気軽に話せる場所とか勉強ができる場所としてそのようなことをしています。自分たちの

知り合いや口コミでメンバーが集まっています。米原の集まりの中では比較的若手の30代から40代を主とするグループです。この場に集まって来られる方々はそれぞれ活動されている方なので、まとまって何かをしようとするわけではありません。まとまって実施したものは一度市長選挙時に公開討論会を実施したことがあります。

委員：また、米原市の子ども会の活動をしています。やっていると、まちづくりもいろいろな制度を作られているいろいろなことをされていたり、審議会や集まりなどに参加しても大体が同じメンバーでほとんどが知り合いという感じで、そこからの広がりが見られないのではと思っています。私たちの年齢層は仕事がメインなのでなかなか地域のことに関われない方も多いですし、もっと若い方というと、最近米原で面白いことをされていると感じる方は大抵移住されてきた方。戻って来られた方もおられますが移住してきた方が多いと感じます。そうすると、ここに生まれ育った方は何をしているのかということを感じます。地域性もあるのかもしれませんが、人の前に出て率先して意見を言われる方は少なく、あまり目立ちたくないという方が若い方には多いように感じています。もう少し若い方が活躍してもらえよう、そういう方の意見を取り入れられるようなことが必要だと思います。若い人に関わって欲しいということ、もっと多くの人意見を出せる環境作りが必要だと思います。何かをして欲しいというわけではなく、言いたいことが言えるような環境、できることがあればやっていけるような環境が必要だと思います。子ども会でも子どもたちを集めて何かをしています、昔あった青年団のように、何かに関わることで地域に愛着がわくようにしたいと思っています。自分たちの意見を表現できる場所を作りたいと思っています。

副会長：セイジカフェはどの程度の頻度で開催されているのですか。

委員：初年度は毎月開催していましたが、去年は3回程度。大学生も是非来ていただきたいと思っています。20代の方も参加されています。

会長：どのような場所で開催されているのですか。移動式でしょうか。

委員：基本的にはルッチプラザでの開催が多いのですが、米原駅前や湖岸で開催したこともあります。

副会長：女性の参加が多いのですか。

委員：それが時間帯が土曜日の夕方6時ぐらいからの開催であるため男性がほとんどです。主婦の出にくい時間帯に設定してしまいました。若い方に参加いただければと思い時間設定をしました。本当は普段からそのような場所があり、学校が終わってからや仕事帰りに集まれるようなサロンのようなイメージだと思っています。できる範囲でのことをしているのでなかなかそこまで至ってはいません。

会 長：できることから始めて徐々に規模が充実していければと思います。私どもも夕方から夜にかけて授業とすると学生からアルバイトができないと言われます。

委 員：私は自治会連絡協議会（旧区長会）会長をしております。先ほど説明のあった地域担当職員制度についてはほとんどの自治会が導入されているものと思っていました。私の自治会も申請しており、避難訓練の在り方や自治防災組織の在り方などの検討をいただこうと思っています。地域担当職員制度を利用している自治会が1／3程度であるというのは残念に思いました。

また、先ほどの説明の中で気になったのが協働事業提案制度です。私は過去4回「あの日あの時、なつかしの車フェスタIN米原」というイベントを実施しています。1979年までの車を集めたイベントです。初めは商工会元気市というイベントに賑わいを作るために実施しました。そこから始まり、来場者は5,000人と米原市でもトップクラスのイベントとなりました。非常に関心が高く、車を持って来ていただく方も参加者からも今年は実施しないのかという問合せがあります。毎年実施ができていけませんのでそのような問合せをもらうとつらい気持ちになります。なぜできないかと言いますと、場所とスタッフ不足が原因です。車を展示する場所は確保できますが、来場者の駐車場の確保が課題となっています。約7年前の1回目はグリーンパーク山東で実施したところ、商工会のイベントが10時から開催であるにも関わらず、10時には駐車スペースがないような状況でした。そこで、奥伊吹スキー場から米原をPRする良い機会であると声をかけていただき2年連続で実施することができました。初めはスキー場まで来場者があるのかと心配していましたが、道が渋滞するほどの参加者でした。しばらく年度が経過した後、一昨年、自動車整備振興会が米原市でイベントをするのに協力して欲しいと相談があり、ジョイいぶきで実施しました。課題である駐車場確保については自動車整備振興会が協力いただくことで実施できました。その後が問題で、また実施して欲しいという問合せがたくさんあるのに実施できていません。展示する車の関係はグループの中で対応できるのですが、警備員などを雇わないと難しい状況です。参加者は遠方から来られるため非常に米原のPRになると思っています。継続して続けられるイベントにしたいと思っており、紹介いただいた協働事業提案制度が生かせないかと考えていたところです。米原を売り込む絶好のチャンスと捉えています。

副会長：主催はどなたですか。

委 員：ほとんど私一人で準備し、当日だけは知り合いに協力いただいています。

す。

会 長：広報はどのような手段をとられていますか。

委 員：広報は展示いただく車は知り合いにダイレクトメールや専門雑誌、来場者は雑誌や市内のケーブルテレビ、新聞社です。写真付きで記事にしてみようとPR度が非常に高いです。

副会長：市や商工会の協力やバックアップはあるのですか

委 員：ほとんど一人でやっています。何故かという仕事もしているの仲間と一緒に動くとなると会議などをしている時間ももったいなくて。どうしても仕事優先になるものですから自分の都合でやっている方が自由がきくからです。

会 長：広報が上手だと思います。我々が新聞に載せてもらおうとしてもなかなか載せてもらえないものです。

委 員：イベントを知らなかった方から残念がられたこともあり、一度記事にして欲しいということで取り組みました。

会 長：地域の他のイベントとドッキングできると今の状況でも実施できるのではないのでしょうか。

委 員：イベントするので模擬店を実施して欲しいということで商工会などに協力してもらっています。模擬店がないと来場者だけでなく車を展示していただいた方の食事する場所がない。一緒に実施すると一石二鳥になります。薬草風呂が良かったという声もありました。

会 長：そういう面でも各方面と連携の可能性が有りますね。

委 員：岩手や東京、広島からも来ていただきました。見せたり屋がいることで見たり屋が集まる。この期に米原がPRできたらいいと思っています。

副会長：今はエコの時代であり電気自動車などがありますが、やはり昔の懐かしさを感じて来られるのですね。

委 員：懐かしさを感じる方は多いのですが、若い方の参加者は少ないです。

副会長：逆に若い方は知らない車なので面白いと感じるのではないのでしょうか。

委 員：若い方も実際に来られるとびっくりなされたりして楽しんでおられます。100年ほど前の車もありました。チラシなどで懐かしい車名を見つけて来場いただける方も多くあります。

副会長：他の事業と繋がっていくといいですね。

委 員：米原市10周年記念イベントでできないかという相談もありました。実際は実施には至りませんでした。

会 長：ネットワークを作り、外部にアピールというものもテーマになるかと思えます。

副会長：地域の食をお弁当にして配るというのも地域振興に繋がりますね。

委 員：難点は展示車のことは私たちの仲間ですが、一般客の対応につ

いて手が回らないのが現状です。

事務局：実際、当日のスタッフは何人ぐらいで実施されているのですか。

委員：イベント内部のスタッフは15名程度でできますが、一般客の対応には人が回せていません。駐車場に関しては他の団体に協力いただきました。

事務局：費用は発生していないのですか。

委員：収入は車を展示いただける方から参加費をいただいています。

副会長：他の活動団体と連携できそうですね。

会長：セイジカフェは協働事業の「のまどカフェ」との関係性はあるのですか。

委員：同じものではありませんが、代表が参加されています。共催するときもあります。他の協働事業の関係者も参加いただくことがあります。

会長：団体間のネットワークもこの場で形成できてしまうのですね。

副会長：このネットワークをどのように広げるかが重要なのですね。

委員：自治会にもよりますが、近くに住んでいても顔を合わす機会が少ないところもあります。住んでいる住民同士の会話の場ができるようなればと思っています。

会長：セイジカフェの話題はどのようなものが多いですか。

委員：最近では米原市のシティーマネージャーに東口構想について学んだり県議会議員に来ていただいたり、ビワイチとマイクリングのことや観光、自治基本条例や総合計画、選挙前は候補者の分析など、そのときのメンバーの関心あることを議論しています。

会長：例えば薬草という資源があるので何かしようかという議論も可能なのですか。

委員：もちろん可能です。参加者に自分の関心のあるテーマを持ってきていただけるといいなと思っています。

会長：先ほどの車のフェスタのことも議論になってネットワークが作れると良いですね。

委員：やはりどこかと連携することが大事だと思います。

委員：車フェスタについては大手農業関連会社の会社内でできないかと商工会長と相談をしています。駐車場も十分ある。トラクターの展示などと連携もできるかもしれないと思っています。

会長：企業の社会貢献にも繋がるのではないのでしょうか。

事務局：交渉の余地があるかもしれませんね。近年、若者が農業への興味を示すための取り組みが進んでおり、格好の良いトラクターも出てきています。年代別にトラクターが並んでいるのも面白いと思います。新た

な参加層を増やせるかもしれません。

会 長：面白い議論になりました。ネットワークとか発信の仕方とか。その基本はみんなで議論することでしょうし、それぞれ繋がりがあると感じました。

先ほど御意見いただきましたように、確かにみんなで議論する時間がないという方も多く、自分自身では時間を作ってできるという方もおられます。その結び付け方も検討する内容になるのではないのでしょうか。

委 員：いろいろな委員会や審議会に関わり、話をしています。その中で感じるのは会議には市民の中から参加いただいているわけですが、その場、会議の場だけでは広がりがないと感じています。議論の中で条例や計画などを決めてもらっても、それを実際に誰が行うのかというのが課題だと思います。他の地域で実施されている100人委員会というのがあり、多くの方に適当に案内が送られ召集されるというところから話し合いをしていくというもので、いろいろな地域でされているようです。そういうことを実施してもいいのかもしれない。それに偶然選ばれることで関心を持てたり意見を言えたりすることもあると思います。そういう場でファシリテータをしていただける市民を育てるということも必要ではないかと思います。

会 長：市民同士の話し合いの在り方もテーマになりますね。

副会長：市民の方がファシリテータをされているうちにその方がレベルアップされていく、また、一回もそういう場に参加したことがなかった方も、終わりには自分たちのまちの話ができて良かったと生き生きとされています。女性は話をする機会がないので、そのような場で発信できるということがそれだけで満足をされていました。効果的だと感じました。また、先ほど仕事がメインでという話がありましたが、どのように両立するかという視点も必要かと感じました。

会 長：話し合う場を設けながら市民同士のネットワークや繋がりを持ち、必要に応じて、発信していくという形が見えてきたかと思います。

副会長：アウトプットをすることが大切だと思います。

会 長：そこに行政からの後押しがあればいろいろと進めていけるのではないのでしょうか。

話し合いの場のこともこれまで話がありました。機能しない、特定の方ばかりの参加、新しい話題が提供できないなどの課題がありました。

委 員：お互いに意見を出しての話合いは苦手な方が多いと思います。

会 長：既存のものと新しい話し合いの場との関係の整理は必要になるでしょう。

副会長：話し合いのテーマ設定も、どのような方がどのように話し合いするのか

	<p>ど考える必要がありますね。</p> <p>会 長：住民の皆さんで話し合っって民間同士のネットワークができるといういろいろなことができると思いますね。本日はいろいろとありがとうございました。</p> <p>5 その他</p> <p>事務局：次回は年度が変わり、5月頃の開催を予定しております。時間が空きますが、その間に今回の意見を基にテーマを整理したいと思います。</p> <p>6 閉会</p> <p>副会長：それぞれいろいろなスキルを持たれて活動されており、感銘を受けました。この場がまさに連携できる可能性のあるものでありました。ここからどんどん発信していき、それが広がる形で推進委員会ももっと発展する議論ができればと思っています。その中で何か結実することがあればと思っています。直接関係があるのかというような意見でも発言いただければと思っています。ありがとうございました。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<p>■公開 傍聴者： <u>0人</u></p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>一部公開または非公開とした理由</p> <p>()</p>
会議録の開示・非開示の別	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等：)</p>
全部記録の有無	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p> <p>録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p>
担 当 課	政策推進課（内線91-245）